

パネルディスカッション2 第7回大会企画パネル  
「高等学校における外国人生徒等教育の現在  
—一定時制高等学校における日本語等の学習支援・キャリア支援の取り組みから—」

高等学校における外国人生徒等教育の現在

—本パネルディスカッションの趣旨—

齋藤ひろみ（東京学芸大学教職大学院）

1 テーマ設定の背景

公立の高等学校で学ぶ日本語指導が必要な外国人生徒等は、平成20年の1,562人からの10年で2.5倍以上となり、4,000人を超えています（文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ情意協などに関する調査（平成30年度）」）。また、日本語指導が必要な高校生等の中退率は9.6%と日本人生徒1.3%の約7倍でした。大学・専門学校等への進学率は42.2%（日本人生徒は71.1%）、就職者の非正規雇用率は40%（日本人生徒4.3%）、進学も就職もしていない者は18.2%（日本人生徒6.7%）に上っており、高等学校における修学・及びその後のキャリアパスに関し、外国人生徒等は深刻な状況にあることがわかります。

高等学校の入試に関しては、「外国人生徒・中国帰国生徒等の高校入試を応援する有志の会」が毎年調査を実施していますが、2022年度の速報では、入試に外国人生徒等の特別枠があるのは22県、6政令指定都市でした。新たに枠を新設する学校が少ないことが指摘されています（同会開催2022年2月27日開催フォーラム資料）。また、東京学芸大学が文部科学省の委託事業として実施している「高等学校における日本語指導体制整備事業」の調査によれば、入学後の日本語指導等の特別な指導・支援は、特別枠入学生徒であるかどうか、また、特別枠のある高等学校かどうかにより異なることが報告されています。また、中退についても1年生の段階での中退が最も多いものの、2年、3年（定時制では4年まで）と学年が上がっても中退数は一定数見られ、その理由には「日本語の習得の問題」「日本の学校文化への不適應」「家族の世話や経済事情」「家庭の事情で帰国・第三国に転居」等が挙げられています（当該事業開催フォーラム配布資料）。

令和3年1月、中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』においては、増加する外国人児童生徒等への教育の在り方についてという項が設けられました。そこでは、高等学校における外国人生徒等への指導の充実を図るため「特別の教育課程」の適用を含めて、取り出し方式による日本語指導の方法や制度的な在り方の検討が求められています。

現在、外国人生徒等が在籍する高等学校においても、受け入れ体制づくり、日本語・学習指導・支援の実施、キャリア支援等に、生徒の言語文化的背景の多様性や地域社会の状況に応じ、独自の取り組みを行うところも増えてきました。しかし、課程（全日制／定時制／通信制）、学科（普通科／工業科／商業科等）、単位制かどうか等の制度面の相違、学校設置教科・科目としての日本語関連の科目の有無、その単位取得と修了認定との関係の複雑さなどがあり、どのように把握し、整理し、解釈すればよいのかが難しいという現状があります。また、設置者である県、市等による制度や対応にも大きな違いが見られます。そのため、高等学校における外国人生徒等教育の全体像はまだ十分には捉えきれいていません。

そこで、本パネルでは、外国人生徒等の在籍の多い定時制高等学校3校と支援団体1団体に、日本語指導・教科等の学習支援の取り組み、キャリア教育、多文化共生教育、地域連携等について、具体的なケースや取り組み事例をもとに報告をします。その報告をもとに、多様な言語文化背景を持つ高校生が高等学校入学後に、本来の力を発揮して社会参画するために期待される教育・支援について検討します。また、かれらが高等学校を社会の一員として成長する環境をつくるために、私たちにできることを会場の皆さんと一緒に考えます。

## 2 構成

### (1) 高等学校の取り組みのご報告

#### 1) 「定時制高校における日本語指導と教育の現状と課題」

愛知県立刈谷東高等学校（定時制） 堀 直予さん

#### 2) 外国ルーツ生徒のキャリア教育－外部団体との連携による取り組み－

東京都立飛鳥高等学校（定時制） 島村 学さん

#### 3) 「多文化共生教育の取り組み－母語・母文化の保障をめざして－」

滋賀県立大津清陵高等学校馬場分校（定時制） 左近 健一郎さん

### (2) 支援団体の報告

「地域における生徒支援の連続性－多文化の子どもの成長と社会参画を支える」

NPO 法人 トルシーダ 代表理事 伊東 浄江さん

### (3) 全体討議

コーディネータ 齋藤ひろみ（東京学芸大学）

## 【参考 web サイト】

- ・文部科学省（2020年／令和2年）「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」の結果について  
[https://www.mext.go.jp/content/20200110\\_mxt-kyousei01-1421569\\_00001\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200110_mxt-kyousei01-1421569_00001_02.pdf)
- ・「外国人生徒・中国帰国生徒等の高校入試を応援する有志の会」（有志の会）  
都道府県立高校における外国人生徒・中国帰国生徒等に対する2021年高校入試の概要  
[https://www.kikokusha-center.or.jp/shien\\_joho/shingaku/kokonyushi/other/2020/202103houkokushoA4.pdf](https://www.kikokusha-center.or.jp/shien_joho/shingaku/kokonyushi/other/2020/202103houkokushoA4.pdf)
- ・東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2021  
<https://www.u-gakugei.ac.jp/~knihongo/index.html>  
19校・団体へのヒアリング調査の資料が公開されています。
- ・中央教育審議会（2021／令和3年）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）  
[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)